ぐるり庄原 カメラレポート
Look Around Shobara Camera Report

各地で行われたイベント＆話題をお届けします。

観察会やバザーでにぎわう
里山の春を感じる「節分草祭」
REPORT ①

総領町の節分草祭が３月７日、道の駅リストア・ステーションで開催されました。

イベントでは、節分草自生地を巡る観察会や、節分草俳句会などが行われ、市内外から多くの観光客が訪れました。

案内所では、ボランティアガイド「花守り」の桑田健吾さんが節分草の生態について講演。その後、参加者と一緒に２カ所の自生地を散策しました。参加者は、周辺の山野草についても説明を受け、多くの山野草が残る総領町の自然を満喫しました。

会場では、自治振興区や地域団体の出店が並び、特産品を買い求める人でにぎわいました。

▲特産品などの販売でにぎわう

▲節分草をカメラに収める観光客

20回記念 ダンスや合唱華やかに
けんみん文化祭備北地区フェスティバル
REPORT ②

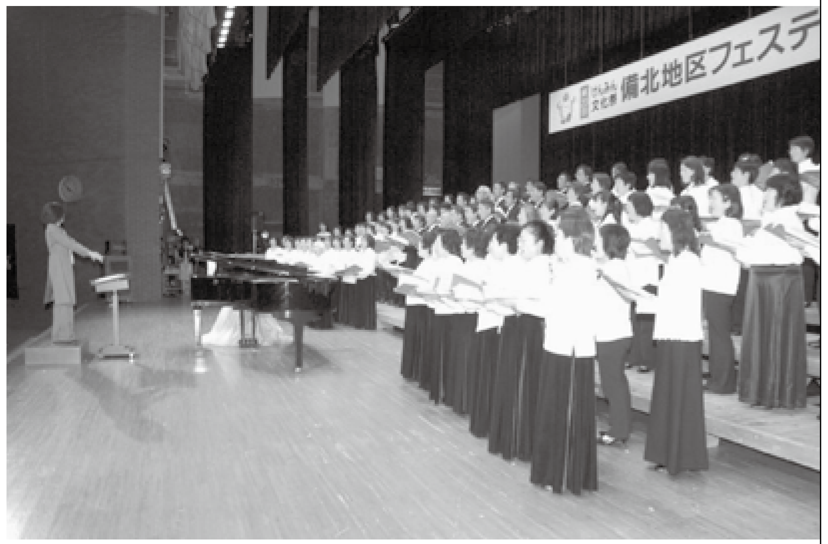
第20回けんみん文化祭備北地区フェスティバルが２月28日、庄原市民会館で開催されました。

けんみん文化祭は、広島県の豊かな自然と伝統に育まれた文化の継承、発展を図ることを目的に、県民の文化活動の発表、交流の場として平成３年から毎年開催されています。

大会には、備北地区で文化活動に取り組む団体の中から、33団体約330人が出演。合唱、大正琴、ダンスなど、日ごろの活動の成果を披露し、会場からはたくさんの拍手が鳴り響きました。

今回は、第20回大会を記念して、「エミッションスタジオ」総勢70人によるダンスと、今大会のために結成された「フェスティバル記念合唱団」125人による合唱が披露され、フィナーレは会場全員で「ふるさと」を大合唱し、盛会のうちに終了しました。

なお、備北地区フェスティバルは秋に開催されるけんみん文化祭の地区予選も兼ねており、備北地区から17団体、うち市内団体７団体が推薦されることになりました。



▲第20回フェスティバル記念合唱団

リニューアルした診療所をPR
帝釈診療所で健康講座
REPORT ③

▲熱心に話を聞く帝釈老寿会「よろずや友愛サロン」の会員

昨年7月に改修工事をした帝釈診療所の利用を呼びかけようと「健康講座」が２月25日、帝釈診療所で開かれました。

この講座は、庄原赤十字病院の出前講座を利用し、内科医師の大野敦司先生が「高齢者が気をつける病気」と題して講演。参加した地域住民20人は、高齢者の病気の特徴や、病気を早期発見する自己チェックなど熱心に聴講しました。

帝釈診療所は市が直営していますが、業務は庄原赤十字病院へ委託。毎週木曜日の10時〜12時と13時〜14時に、庄原赤十字病院の内科医師や看護師、検査技師など充実したスタッフが診療にあたっています。

昨年の改修工事では、診療所の床の張り替えや段差解消、トイレや洗面台の改修などを行っています。

感謝の気持ちを込め振る舞う
みどり園保育所「お茶会」
REPORT ④

口和町のみどり園保育所の年長児６人が３月３日、保護者を口和郷土資料館の茶室に招き、「お茶会」を開きました。

１年間「マナーデー」としてお茶の作法を習ってきた成果を披露しようと、園児自らがお茶をたて、前日に作った「ほとぎ」を一緒に出して、保護者をもてなしました。

園児が恐る恐るお茶碗を運ぶ様子に、保護者はそわそわしながらも、ほんのり甘い「ほとぎ」としっかりとたてたお茶をいただき、味わい以上の喜びを感じていました。

終始緊張した面持ちの園児は、小森鈴江所長から1年間学んだ「おしるし」を手渡され、無事にお茶が振る舞えた喜びから、ようやく普段のかわいらしい笑顔がこぼれました。

▲１年間の成果をお母さんに披露

パネルでひな人形気分を味わう
東城子育て支援センター「ひなまつり」
REPORT ⑤

▲パネルに顔を出して遊ぶ子ども

未入所児を対象にした「ひなまつり誕生会」が３月３日、東城子育て支援センターで開催され、親子連れなど30人が参加しました。

桃と橘の絵に、子どもたちが桃の花やみかんのカードを貼り付けて、ひな飾りを作りました。また、お内裏様・お雛様の顔出しパネルに、顔を出して記念写真に納まりました。お土産に、まめになるようにと、蒸した「はなまめ」にチョコレートをコーティングしたお菓子を持ち帰りました。

参加者は「家でするひなまつりと違い、たくさんのお友だちと一緒に歌を歌ったり、ひな飾りを作ったり楽しかった」「お内裏様に変身していい記念になった」と話していました。

REPORT ⑥ 古民家で世代間交流
高野の穴場で芋煮会

▲八谷さんの昔話を聞く参加者

高野町の新たな魅力を発見しようと、上高公民館と高野里山倶楽部が2月21日、和南原地区の古民家で「芋煮会」を開催しました。

市内各地の保育園児から高齢者まで約30人が参加。地元特産の高野ダイコンをはじめ、サトイモ、ゴボウなどの食材をふんだんに入れて、参加者全員で調理しました。地元料理人直伝のレシピで、しょうゆ味に仕上げた「芋煮」は、「大変おいしい」と好評。「古民家も穴場としてさまざまな利用が考えられる」と参加者は話していました。

また、もみ殻を燃料とするかまど「すくもくど」で高野産コシヒカリを炊いたご飯も「香りがいい」と評判でした。

食後、郷土史に詳しい八谷正夫さんによる高野の昔話や戦争体験などの話を聞いたり、和南原かるたで遊んだり、1日楽しく交流しました。

REPORT ⑦ 「コツは愛情」地域から学ぶ
美古登小そば打ち体験

美古登小学校4年生10人と保護者が2月18日、八鳥集会所に出かけて、地域の人とそば打ちを体験しました。

今年で3回目となるこの行事は、美古登小学校が行う食育活動の一環で、八鳥自治振興区の男性料理教室やふれあいサロンのメンバーが指導。4年生が育てたそば粉6.5キロを使用し、約80食分のそばができあがりました。

粉だらけになりながらそば打ちに挑戦した児童は「愛情を込めて打つことがコツと教わった」「そば粉をこねるところや、切るところが難しかったけど楽しかった」と話していました。

八鳥自治振興区の藤田正雄会長は「子どもたちのやる気でコシのあるおいしいそばができた」と交流を喜んでいました。

▲コツを教わりそばをのばす児童

REPORT ⑧ 巨樹の遺伝子を後世に
県天然記念物の桜苗木が里帰り

▲アースワーク公園に植樹

県天然記念物に指定されている「小奴可の要害桜」と「下領家のエドヒガン」の里帰り植樹が3月4日、東城町小奴可と総領町下領家で、それぞれ行われました。

これは、巨樹の貴重な遺伝資源の滅失を防ぐため、平成20年3月に市教育委員会が独立行政法人林木育種センターの「遺伝子銀行110番」へ、遺伝子のクローン増殖を依頼。今回、その増殖に成功し、クローン苗木として「小奴可の要害桜」10本と「下領家のエドヒガン」9本の里帰りが実現したものです。

当日は、あいにくの雨模様でしたが、多くの地元関係者が参加し、盛大に植樹祭が行われました。総領町では地元のシンボルにしようと、アースワーク公園に植樹し、参加者は「親木と同様に数百年も元気で花を咲かせてほしい」と願っていました。

REPORT ⑨ 患者の負担軽く精度もアップ
県北初の高性能CTを日赤が導入

庄原赤十字病院が2月26日、X線で臓器などを立体画像で写し出し、狭心症などを早期発見できる最新鋭の「64列CT装置」の稼動をスタートしました。

今回導入したCT装置は、X線管状1回転で最小0.625ミリという薄い断層像を64枚撮影することができます。回転数が速いほど、ぶれない鮮明な画像を写し出せることから、動いている臓器の撮影に威力を発揮。これまでの冠状動脈検査は血管内に管を通すカテーテル検査が主流で、しかも従来機（4列）を使用するときには息止めも20秒間かかっていましたが、今回の新機種「64列」では息止めも約5秒で済み、カテーテル検査の必要もなくなりました。

循環器科の杉野浩部長は「カテーテル検査は入院が必要だったが、今後は外来診療で心臓の詳しいことが分かる」と話しています。

▲導入した高性能CT

REPORT ⑩ アロマと温泉でぽっかぽか
冬を楽しむ健康づくり講座

▲足をマッサージする参加者

「冬を楽しむ健康づくり講座」が、比和温泉施設「あけぼの荘」で行われました。

温泉施設を活用して寒い冬を元気に過ごそうと比和支所市民生活室が主催。2月2日～19日までの4回シリーズで、延べ35人が参加しました。

講座では、アロマインストラクターの滝口季里花さんから、香りの効能を学んだり、芳香油で足をマッサージしたり、香りで全身の調子を整える方法を学びました。また、栄養士の指導でショウガジャムなど、体を暖めるおやつも作りました。

参加者は「リラックスして楽しい時間が過ごせた。香りと温泉を組み合わせて、寒い冬を乗りきりたい」と話していました。

REPORT ⑪ 旅立ちの日「食育」忘れんさんな
卒業祝いにレシピ本を贈呈

▲卒業生代表にレシピブックを手渡す

東城町健康づくり推進員連絡協議会が2月26日、東城高校3年生42人の卒業をお祝いして、レシピブック「ひとりでも！クッキング」をプレゼントしました。

これは、卒業後自炊を始める生徒が多い中で、これまでと同様に健康的な食生活を送ってほしいと、今回初めて行われました。

木野谷幸子会長と松浦ヒサ子副会長は、「バランスよく食べるんよ」「ふるさと東城の味を忘れんさんな」など、推進員が書いた心温かい応援メッセージを添えて手渡しました。

木野谷会長は「若者の食生活の乱れが指摘される昨今だけに、食事を大切にして心身を健やかに保ち、夢を叶えてほしい」と話していました。